

推薦する取り組み

園館名

バンドウイルカにおける
玩具を用いたトレーニングの取り組み

マリンワールド海の中道

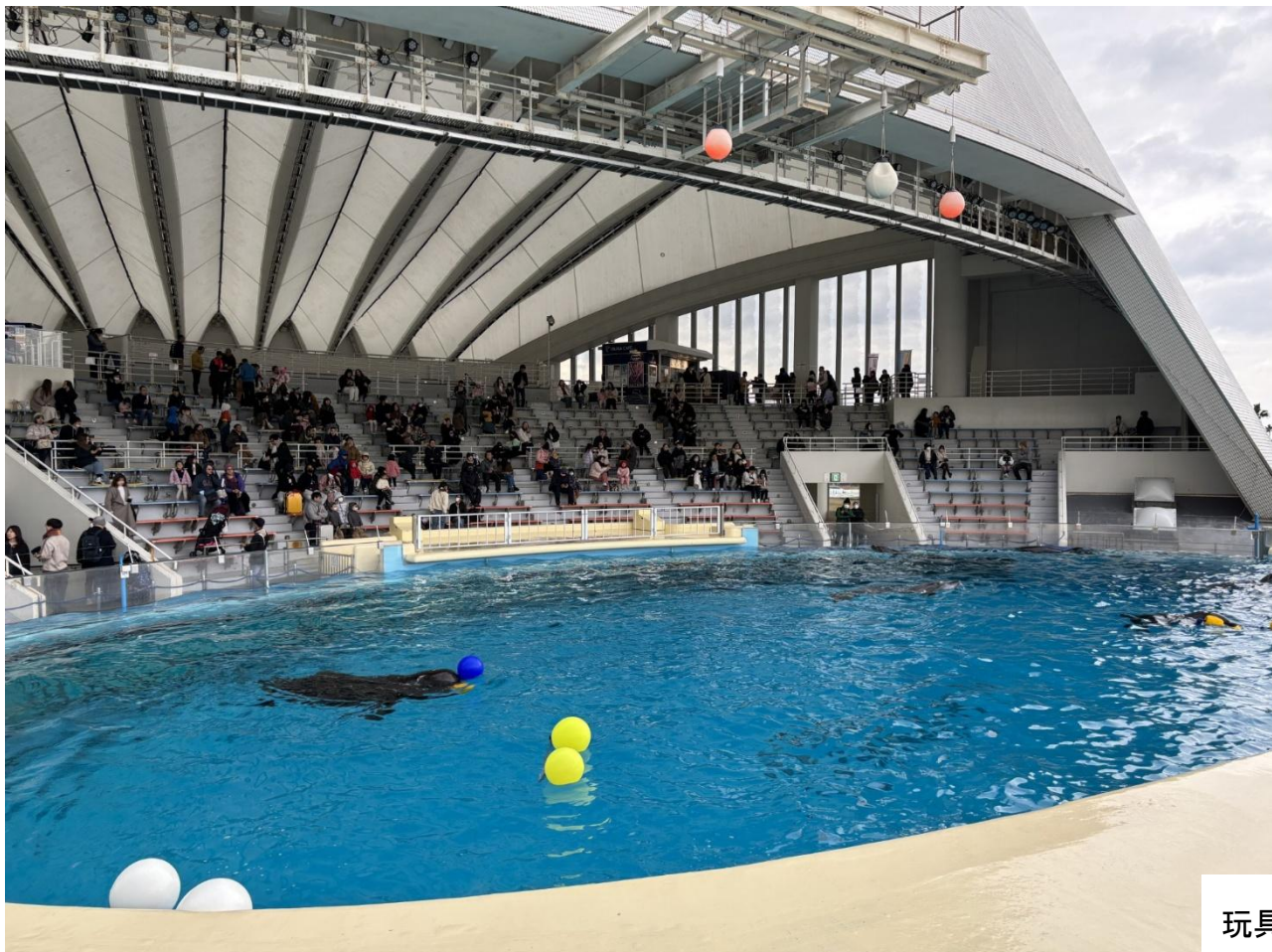
推薦理由

当館では、2023 年 10 月から鯨類 17 頭における玩具による遊び行動（以下遊び行動）の有無を記録している。その記録から、遊び行動が多い個体と、少ない個体がいることが判明した。そこで遊び行動が少ない個体に玩具を用いたトレーニングを行い、行動の変化を評価した。対象個体は 2024 年 1-7 月の期間で遊び行動が最も少なかったバンドウイルカ（雌、推定 38 歳）とした。それまで遊ぶことがなかった玩具に対する脱感作を行い、吻先で玩具を押す行動を形成した後、トレーナーの手元まで玩具を運ぶ行動にサイン付けを行った。トレーニングは 1 回あたり 5-10 分とし、9 月 6 日から開始して 10 月 8 日に回収動作が完成した。

行動評価は、8 月 19 日-10 月 25 日の期間に計 29 回、玩具の提供がある状態とない状態で、其々 10 分間行った。評価方法は目視観察での個体追跡法とし、30 秒ごとの瞬間サンプリングを行った。観察された行動はポジティブ行動、ネガティブ行動、ニュートラル行動に分類した。

ポジティブ行動の割合は、トレーニング前の 8 月 19 日-9 月 4 日は 55%であったが、トレーニング開始後の 9 月 6 日-9 月 24 日には 80%に増加した。また、他個体の出産に伴う当該個体の環境変化により 10 月 6 日-10 月 14 日にネガティブ行動の割合が 79%まで増加したが、自発的な遊び行動が確認された 10 月 18 日以降、玩具の提供を行うことで 50%に低減できた。

更にその後も、自発的な遊び行動の記録を継続すると、遊び行動の割合が 2024 年 1-7 月の 9%から 2025 年 4-5 月の 25%に向上した。また、遊び行動が見られた玩具の種類も、1 種類から 6 種類へと増加し、行動の多様化にも繋がった。以上より、玩具を用いたトレーニングは、遊び行動が少ない個体に対して遊び行動を誘起する上で有効であり、アニマルウェルフェアの向上に有用なアプローチであると言える。また、遊び行動が確認できた個体に対しての玩具提供は、環境変化によるネガティブ行動の低減にも有効であることが示唆された。

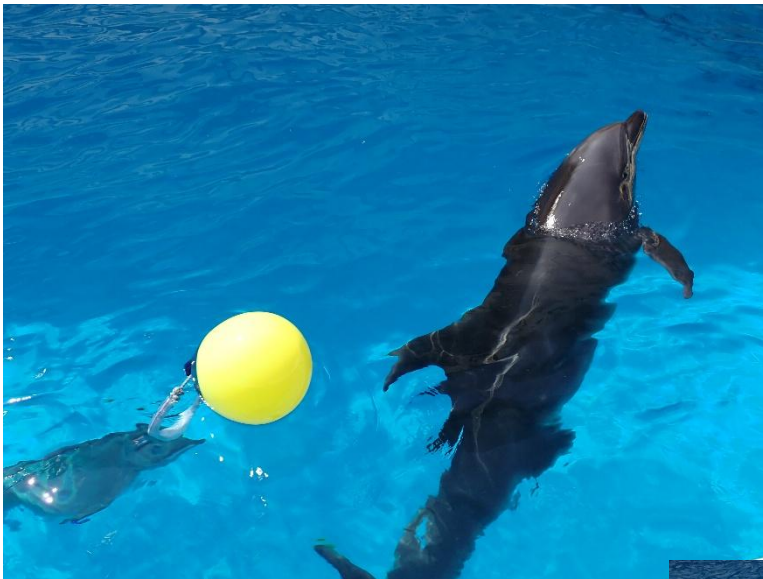


玩具提供風景

玩具を使用したトレーニング



使用している玩具



トレーニング前の様子

トレーニング後の様子

